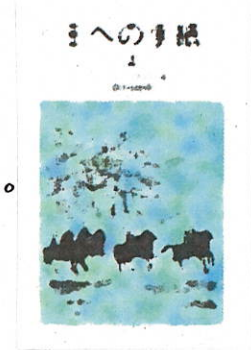
本日のテーマ「昨年読んで面白かった本」

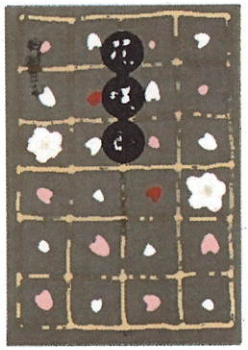
実施日：2018年1月28日

1　**「王への手紙　上・下」**
トンケ・ドラフト／作　2005年
岩波書店　【S94ドラ】



岩波少年文庫から出ているボリュームたっぷりの冒険小説。これから騎士になろうとしている少年ティウリが、隣国の王へ重要な手紙を届けるという役目を背負います。次々に試練が訪れ、この人は敵？味方？手紙の内容は？と先が気になります。

2　**「花咲か」**
岩崎京子／著　2009年　石風社　【YNイワ】

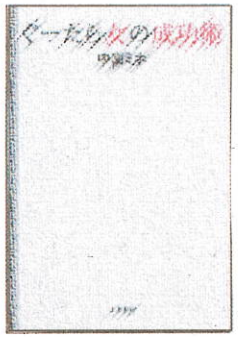


今では桜の名所がたくさんありますが、昔はお金持ちやお大名が屋敷の奥で楽しんでいました。物語の時は江戸時代。花が好きな常七は、親方に見込まれて植木屋で奉公を始めました。キク作りが大流行していた時代ですが、常七の夢は江戸中を桜でいっぱいにすること。常七が書き残した覚書きを元に話が進むところがおもしろいです。

3　**①「烏に単は似合わない」②「烏は主を選ばない」③「黄金の烏」④「空棺の烏」⑤「玉依姫」⑥「弥栄の烏」　…八咫烏シリーズ**
阿部智里／著　2012～2017年　文藝春秋　【Nア】

人の姿にもなれるヤタガラスの一族が住む世界が舞台。お話は世継ぎの若宮の后選びから始まりますが、巻が進むにつれ、この世界に秘められた謎が現れてきます。随所に散りばめられた伏線がみごとで、前の巻を何度も読み返したくなります。巻順に、イッキ読みすることをおすすめします。

4　**「ぐーたら女の成功術」**
中園ミホ／著　2016年　文藝春秋　【912ナ】

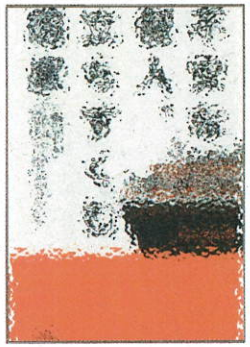


NHK大河ドラマで現在放送中の「西郷（せご）どん」の脚本家のエッセイです。逃げることや楽することばかりを考えてきた失敗だらけのダメOLだった彼女が、どうやって人気脚本家になったのか？毎日を頑張って生きている女性に読んで欲しい本です。

5　**「クローバーナイト」**
辻村深月／著　2016年　光文社　【Nツ】

小学校に入るまでの子育て真っ最中のお母さんにおすすめします。"保活のために離婚する?! お誕生日会に○百万円?! 2人目計画はお受験に合わせて?! 子育て事情はため息の連続。"オーバーに小説的に描かれている部分も多いと思いますが、身につまされる子育てあるあるネタがたくさんあるのでは?!

6　**「不安な個人、立ちすくむ国家」**
経産省若手プロジェクト／著　2017年
文藝春秋　【302.1】



経済産業省の中での公募によって集まった若手官僚30人がこれからの日本の課題を考え、「富の創造と分配」「セーフティネット」「国際秩序・安全保障」についてわかりやすい図を作ってレポートしました。養老孟司らとの座談会やプロジェクトメンバーへのインタビューも収録。他人事ではなく、私達も考えていかなければならない課題です。

7　**「屍人荘の殺人」**
今村昌弘／著　2017年　東京創元社　【Nイ】

鮎川哲也賞受賞、"このミステリがすごい"他主要ミステリランキングでも立て続けに首位を独占して三冠をとった話題の本書。大学のミステリ愛好会の男子学生2人が、映画研究会の夏合宿に参加するためペンションを訪ねると、想像もできない出来事が…。翌朝には斬殺死体が…。という一見ありきたりのミステリのようですが、今までにない斬新な仕掛けで、目からうろこです。ホッコのなノリですが、ラストまでハラハラが止まらなくなります。